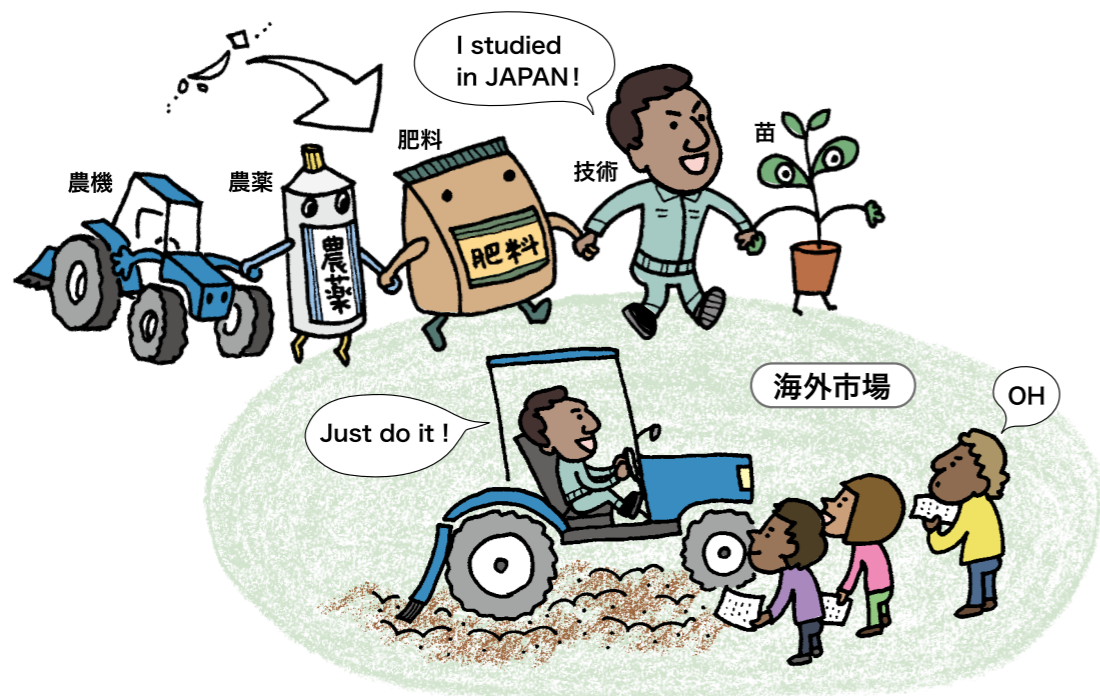




農業機械の輸出販売を促進するための海外人材の育成



- 生産技術と一体化した取組により農業機械の輸出を促進
- アジアを始めとする海外の農業機械有望市場を開拓
- アジアを始めとする海外の農業研修生の人材活用



シナリオ

- 農業者は、人手不足と高齢化のため、新たな農作業の担い手を必要としていた。一方、農業機械メーカーは、経済力が向上し、農業機械を購入できるようになった新興国向けの輸出を考えていた。
- そこで、農業者と農業機械メーカー・販売会社が連携し、海外人材の育成による農業機械の輸出販売促進のビジネスモデルを構築することとなった。
- 農業者と農業機械販売会社は、新興国から受け入れた研修生に、農作業をしてもらう代わりに、日本式の生産技術、農業機械の扱い方、簡単なメンテナンス方法を教える。
- 研修期間が終了し帰国した研修生は、農業機械メーカーの現地法人の委託を受け、現地の農業者に日本製農業機械を使いながら、日本式の農業を教え、日本製農業機械の輸出販売促進に貢献する。

役割

農業者

- 新興国の研修生に農作業を手伝ってもらいながら、これまでに培った農業生産技術を活かし、日本の農業技術を指導する。

農業機械メーカー・販売会社

- 農業機械メーカーが、有望市場である新興国において自社農業機械を販売するには、自社機械の操作方法を教え、メンテナンスができる人材の育成が不可欠なので、研修生の指導マニュアルを作成し、販売会社が行う指導を支援する。
- 販売会社は、自社の農業機械の操作方法や、簡単なメンテナンス方法を指導する。

効果

農業者

- 研修指導という形で農作業の担い手が確保できることから、効率的に生産性の向上が図れる。
- 農業機械販売会社と連携した研修指導を行うことにより、研修効果が向上する。

農業機械メーカー

- 自社の販売代理店である農業機械販売店の農業研修生教育を支援し、研修生の帰国後には、現地で自社製品の使用方法の指導者として働いてもらうことで、輸出販売が拡大する。

農業機械販売会社

- 海外から受け入れた農業研修生を教育することで、高齢化、担い手不足により減少しつつある国内の農業機械市場を維持、拡大し、売上げが向上する。

副次的効果

海外研修生

- 農業技術は日本の農業者から、農業機械の操作方法やメンテナンス方法は農業機械販売会社から教わるので、日本農業を高いレベルで総合的・効率的に学べる。
- 将来自国に帰って、農業者としての成功だけでなく、農業機械輸入業者としての成功可能性も広がり、日本で農業を学ぶ実利が大きくなる。